

けられた。

終戦直前樺太にあった鉄道のキロ数はつぎのとおりである。

国 鉄		
樺太東線	大泊港・上敷香	352.0 km
	落合・栄浜	10.3
	栄浜・栄浜海岸	1.8
豊真線	豊原・真岡	83.8
	真岡・浜真岡	1.8
川上線	小沼・川上炭山	21.9
樺太西線	本斗・久春内	170.1
	本斗・浜本斗	1.3
私 鉄		
南樺太会社線	新場・留多加	18.6
南樺太炭鉱線	本斗・内幌炭山	16.3

以上鉄道の軌間はいずれも 3'6" (1.067 m)。

終戦の結果樺太はソ連軍に占領され、鉄道の経営もソ連邦の手に移るに至った。

参考資料 国有鉄道停車場一覧台帳 昭和 21 年。伊沢道雄著 開拓鉄道論(上)。日本国有鉄道編 陸運十年史。(遠藤 武)

かりえき 仮駅 海水浴場、観光地等で臨時多客が予想される場所に、一定の期間にかぎり旅客乗降の利便を図って開設される駅。現在国鉄では仮駅の設置は本社で行ってあらかじめ公示し、営業キロ程も定められるがその開業の時期も限られ、利用旅客も地方的であるので開設時期、旅客の取扱区間は鉄道管理局長が定めることとなっている。仮駅は被管理駅で、広い意味では停車場であるが現業機関としての駅ではない。現在国鉄には東海道本線袖師外 19 の仮駅がある。(森 梯寿)

かりじょうこうじょう 仮乗降場 季節的に旅客の集合する場合等旅客乗降の利便を図るため駅以外の場所に設備した乗降場をいう。このほかに臨時乗降場も仮乗降場と称することがある。

現在国鉄では仮乗降場の設置は本社で行っており、その開設期間、旅客の取扱区間等については鉄道管理局長が定めることとなっている。

仮乗降場と仮駅との異なるところは、仮乗降場には営業キロ程が設けられず、運賃は外方駅の運賃によることとしている点である。現在通勤・通学等の利便を図るため、鉄道管理局長かぎり臨時に列車を停車させ旅客の取扱を行っている場所があり、これも仮乗降場または臨時乗降場と通称する。(森 梯寿)

カーリターダ (英) car retarder (独) Gleisbremse (仏) sabot-frein ハンプ操車場で仕訳中の貨車を自動的に制御させる装置。ハンプ操車場において貨車を方向別線に散転して仕訳を行う場合、貨車の形式・気温・天候・季節等によってその走行距離を異にする。したがってこの貨車を仕訳線の適当なところに止めるため制動作業が必要となるが、この作業は連結手が貨車の車側に添乗して、制動桿(かん)を足で踏んで制動するのが普通である。この方法は多数の連結手を要し、またその作業はきわめて重労働であり危険な作業でもあるので、貨車の制動を自動的に行うために作られたものである。

1 種類 カーリターダは、その型式上から分類するとつぎのようになる。

(1) レールの両側に設けた制動けたによって車両をはさんで制動するもの ア 水圧式 フレーリッヒ型(ドイツ) イ 圧縮空気式 ユニオン型(アメリカ)、ヨルゲン型(ドイツ) ウ 電動機式 ジアレス型(アメリカ)。

(2) 軌道に磁場をつくり、走行車輪に生ずる渦電流(エディ

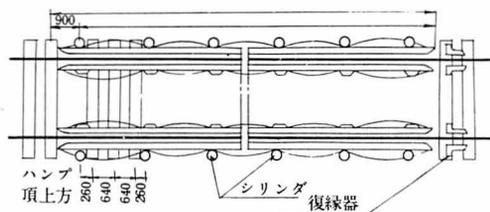
カレント)の作用により制動するもの—電磁式 エディカレント型(ドイツ)。

(3) ヘムシューを機械的に操作するもの—制動靴式 デロアゾン型(フランス)。

2 わが国に採用されているカーリターダ 動力に圧縮空気をういたユニオン型で、現在新鶴見、吹田(上り方向別のみ)、大宮に設置され、今後も順次大ヤードに設置される傾向にある。

(1) ユニオン型の制動機構(図-1,写真-2,5)

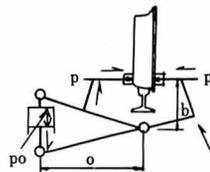
1. ユニオン型制動機構



2. カーリターダ(新鶴見操車場)

制動けたは長さは 10.5 m または 14.1 m で 6 組または 8 組のシリンダが 1.8 m の間隔で制動けたに取付けられている。制動けたの終点には復線器がついて

3. 差動図



いて、車両が横圧を受けてせりあがり、脱線した場合でも復線できるようにになっている。制動けたのシリンダに圧縮空気が送られると、制動けたは図-3の矢印の方向に差動して車輪を制動する。この圧縮空気の圧力は普通次の 5 段階になっていて、転走する貨車の種類により、てこ扱所のノッチを操作して所要の制動をかけ得ようになっている。

空気圧力 1 ノッチ 2 kg/cm² 2 ノッチ 3 kg/cm² 3 ノッチ 5 kg/cm² 4 ノッチ 7 kg/cm² 5 ノッチ 9 kg/cm²

(2) カーリターダの制動量ならびに減速値

カーリターダのハンパの勾配(こうばい)を定める場合に、転走する貨車が制動を受けてどの程度に減速するかを調べる必要がある。制動量すなわち走行する貨車の運動のエネルギーを吸収する量はつぎの式で表わされる。

$$E = 2 NKPS$$

ただし E = 制動量 (t-m)

N = 貨車の持つ車軸数